

狙い通りの嫌われよう

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(53)＝草津市②

はい上がる人

わたしの歩跡

「知る人ぞ知る存在だった役者の「土平ドンペイ」が全国区になったのは、NHK連続テレビ小説「べっぴんさん」(2016年度下半期)で演じた悪役「玉井」でお茶の間を苦しめさせてからだ」

大阪放送局で撮影する「べっぴんさん」のディレクターらが「功名が辻」で監督や助監督などをしていた面々で、絶対かわらなアカンやつやなって。ところが第1陣、第2陣のキャスト発表に入ってから、どう

戦争直後の闇市を仕切っている親分(団時朗さん)がいて、その子分でした。何人か連れて「ショバ代を出せ」とか嫌がらせをする設定です。「主役の後ろに玉井が現れ、のぞき込む」とか、ト書きにはよく出てくるんです。衣装合わせの際に監督は「玉井の内面はドンペイさんにお任せします」って言うてくださって。印象に残るところに出てくるので、自分の味を出

さなアカンなって思いました。玉井をどういう人物にしようか。戦争に負けて、人々がなげなしの物を持ち寄っている闇市で上前をはねる。視聴者に「ほんと大嫌い」「いなくなつてほしい」って、めちゃくちゃ嫌われるヤツになりたいなと思ったんです。しゃべらへんからこそ、その場面をぎゅっと抑えなアカン。しゃべらずとも、すごい色を残している方が、役者冥利というか、やりがいがありました。役者としては難しいんですけどね。

もう一つインパクトを付けたいな。何がええんやろ。玉井って足が悪かったんですけど、なんでやろ? 戦争だけがしたの? 行っていないこいつ。じゃあ何? ひどいことを平気でやるのは過去に相当な目におとんのや。日本が裕福だった戦争前に差別を受けて暴行され、足もひん曲げられたんやろなって考えて。単に印象づけたいからって、安易な考えで足を引きすったんではないんですね。

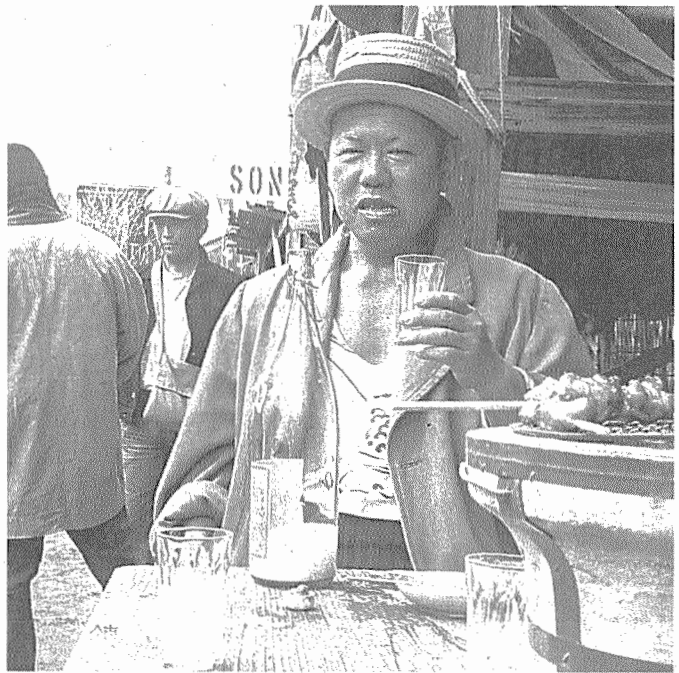
伊吹山のふもとに昭和の雰囲気を残す、立派な闇市のオープンセットが作られて。足のごときは監督に事前に相談して、撮影直前にOKをもらって、よっしゃ、最後まで引きすったろ。気をつけなアカンののは、どっか



つちひら 玉井 役 土平ドンペイ

「べっぴんさん」で憎まれ役の玉井を演じた「いすれも本人提供

話さずも場面締めた玉井役



撮影の合間に闇市のセットで

で引きずるの忘れたっていうのが自然にできるかなって、撮影前から鏡の前で相当練習して、この歩き方やったら、全然違和感ないなって決めました。

放送が始まって、いざ玉井が闇市で嫌がらせをどんどんする話数になってきた頃、友達にツイッターやらインターネットやらに相当出てるでって聞いて、自分でも見てみたんですね。

「あんなヤツ死ね」「出てく

るな」「大嫌い」っていうのがめちゃくちゃ多くて。願っていた声が丸々100%出てたので、玉井という人物造形は間違いないかってなって。ただ、そんなのがずっと続き、あまりの嫌われように、役者の土平ドンペイとしてはすごい喜んでるんですけど、本名の土平友厚になったときに悲しくなって。それくらいのたたかれようでした。

「前向きさに頭下がる」

ドンペイさんがフェイスブックで発信し、コメントに返事を書いています。作品ごとに全力を尽くす姿に、「仕事の前向きさ!!には頭が下がります。私も仕事頑張ろう」というコメントが寄せられ、ドンペイさんが「必死のパッチ時に代わった! 今も変わらない魂ですが」と答えています。

魂ですが」と答えています。